



# 直江津港湾協会だより



No.6

令和 4 年 10 月 24 日

食欲の秋、芸術の秋、行楽の秋となりました。

「越後・謙信 SAKE まつり」が 3 年ぶりに高田本町商店街で開催され、市内外から多くの方が当地の地酒に酔いしれました。国の全国旅行支援も始まり、コロナ禍で外出を控えていた皆さまも、行楽にお出かけになってはいかがでしょうか。

## 1. 汚染対策部会の講演会を開催しました

令和 4 年 8 月 22 日

公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構の上平 明 様から、「流出油事故への対応」と題した講演と、A重油及び軽油回収の水槽実験を行いました。

参加者からは、「過去の事故事例から学ぶ方式で分かりやすかった」、「初動対応の大切さを学べた」等の声がありました。

実働機会が少ない中で、いざという時の対応方法を再認識する良い機会になりました。

今回の講演会の様子は、海と渚環境美化・油濁対策機構のホームページで公開されています。皆さまご覧ください。

海と渚環境美化・油濁  
対策機構 HP



## 2. 直江津港見学会

上越市では、地域の産業や暮らしを支える直江津港と海に関わる仕事を紹介する直江津港見学会を開催しています。当協会も港の賑わい創出のために協賛しています。

8 月、9 月には、直江津港湾事務所から港の概要説明や、普段は入ることができない港内の案内をしていただいたほか、東北電力(株)上越火力発電所建設所、上越海上保安署、(株)INPEX 直江津 LNG 基地から仕事紹介や施設の役割について説明いただきました。



「発電所を知ろう」



「海上保安官の仕事を知ろう」



「LNG 基地を知ろう」

## 3. 上越沖での表層型メタンハイドレートの海洋調査

令和 4 年 9 月 17 日~27 日

国立研究開発法人 産業技術総合研究所(以下、「産総研」)では、経済産業省から委託を受け、表層型メタンハイドレートの研究開発を実施しています。去る 9 月に、上越沖において地球深部探査船「ちきゅう」を使用した海底地盤の強度調査が行われました。

国では、2027 年までに、商業化に向けたプロジェクトの開始を目指しています。今後の研究開発に際しては、直江津港が拠点となるよう引き続き要望・啓発を行ってまいります。

また、11 月 9 日(水)には、東京海洋大学の青山千春特任准教授、ウエタックス(株)の植木専務を講師に招き、「表層型メタンハイドレート講演会」が開催されます。皆さま、ぜひご参加ください。なお、詳細につきましては、同封のチラシをご覧ください。



## 4. 税関 150 周年記念イベント in NIIGATA

令和 4 年 11 月 3 日

令和 4 年 11 月 28 日(月)、税関は発足 150 周年を迎えます。

150 周年を迎えるにあたり、新潟税関支署では記念イベントを開催します。この機会に、税関の役割について学んでみませんか。

日時:11 月 3 日(木・祝)9 時 30 分~15 時

会場:新潟市歴史博物館(みなとぴあ)

住所:新潟県新潟市中央区柳島町 2-10

内容

【プログラム】

9:30 オープニングセレモニー

10:00 キッズダンス披露

10:00~ 監視艇「りゅうと」公開

11:00 麻薬探知犬デモンストレーション①

13:00 アカペラ公演

14:00 麻薬探知犬デモンストレーション②

【みなとぴあ本館内】

・検査機器の公開 ・記念缶バッジ制作

・記念撮影コーナー(子供用制服、カスタムくん、顔出し看板)等

◇イベントに関する問い合わせ

新潟税関支署総務課 025-244-9312

税関 150 周年特設サイト →



**税関 150 周年**

税関は、明治 5 年(西暦 1872 年)11 月に、その前身である「運上所」から、「税関」へと呼称が統一され、令和 4 年(西暦 2022 年)11 月に 150 周年を迎えます。

明治元年(西暦 1869 年)11 月「新潟港」は、佐渡の奥津(スビすみ)など、現在の新潟港を補助港として開港し、同時に「新潟運上所」が開所される。

明治 5 年(西暦 1872 年)11 月運上所を「税関」と呼称統一。「新潟運上所」→「新潟税関」

※「新潟税関」はその後、「横浜税関 新潟税関支署」、「東京税関 新潟税関支署」と組織名を変え、現在に至っています。

日本の未来は 私たちが守る

JAPAN CUSTOMS 150th Since 1872

「水際で守る 日本の未来」

(税関 150 周年特設サイト)